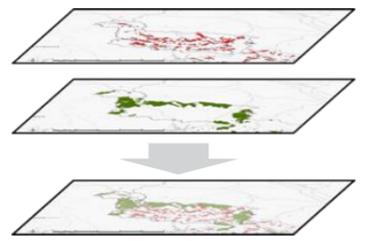


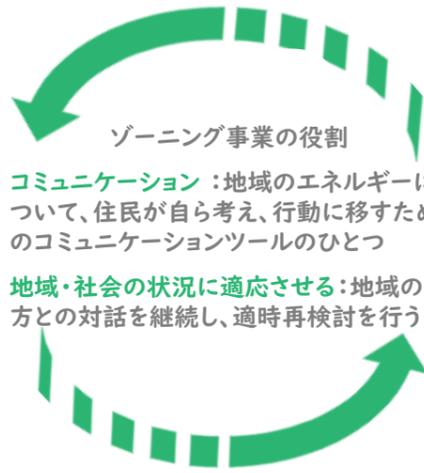
ゾーニング事業とは？

再生可能エネルギーを導入するにあたって、法規制や環境配慮、地域住民や専門家の意見など様々な情報を調査・整理しまとめ、それらをレイヤー（情報ごとの層）として重ね合わせ、導入を促進する区域や、導入を避けて保全する区域を設け、マップで図示を行うものです。

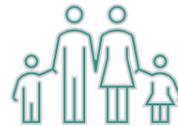
科学的・客観的評価



- 地形・災害
- 生態系
- 再エネポテンシャル
- 各種規制



多様な住民の思いへの配慮



- 開発・災害への不安
- 美しい景観への思い
- 情報不足

検討過程

① 庁内検討委員会

2021年度から、再生可能エネルギーや地域社会との共生等に見識の深い有識者を招いた庁内検討委員会を開催し、素案を作成しました。

② ステークホルダーヒアリング

自然保護団体、観光協会、自治会など町内外のステークホルダーの皆さんに、再生可能エネルギーの導入・抑制に関するご意見やアドバイスをいただきました。

③ ワークショップ

「地域で考え地域で作る-能勢の自然エネルギーワークショップ」を2022年9月（第1回）と11月（第2回）に開催しました。地域の環境・文化・生活と共生する自然エネルギーのあり方や具体的な設置・禁止場所について、地域の皆さんからたくさんのご意見をいただきました。



④ パブリックコメント

ゾーニングマップの策定に当たり、今後、皆様から意見募集を行う予定です。

ゾーニング事業と条例制定（予定）

能勢町ではゾーニング事業と並行して再生可能エネルギーの導入に関する条例制定を予定しており、ゾーニングのエリア区分を条例内でも位置付けることによって法的拘束力を持たせることを予定しています。

ゾーニング事業（本事業）

導入における適切なエリア設定
地域の意見、専門家の意見反映



条例制定（予定）

エリア区分の位置付けを明確化

未来の能勢で叶えること

NOSECHO
2050
VISION

能勢町再生可能エネルギー導入に係るゾーニング計画パンフレット



里山を育み 人と環境にやさしい まちの未来

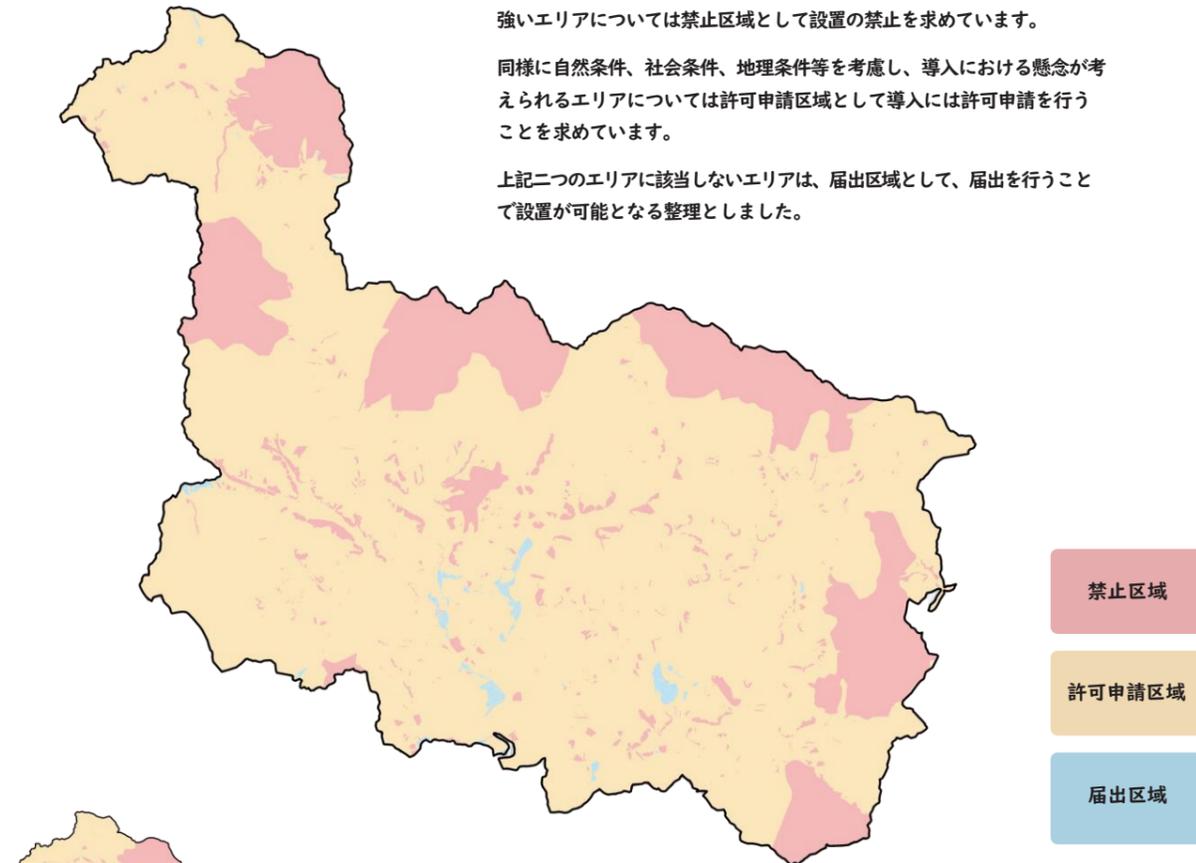
2022年の ゾーニングマップ

太陽光発電

自然公園内など自然環境の保全が優先される地域や土砂災害の懸念が強いエリアについては禁止区域として設置の禁止を求めています。

同様に自然条件、社会条件、地理条件等を考慮し、導入における懸念が考えられるエリアについては許可申請区域として導入には許可申請を行うことを求めています。

上記二つのエリアに該当しないエリアは、届出区域として、届出を行うことで設置が可能となる整理としました。



陸上風力発電

太陽光発電と同様に、自然公園内など自然環境の保全が優先される地域や土砂災害の懸念が強いエリアについては禁止区域として設置の禁止を求めています。

次いで導入における懸念が考えられるエリアについては許可申請区域として導入には許可申請を行うことを求めています。また風力発電については、気象レーダーや住居からの離隔も考慮しています。

風力発電については、町内いずれのエリアも禁止区域、もしくは許可申請区域に該当するため届出区域は該当しません。

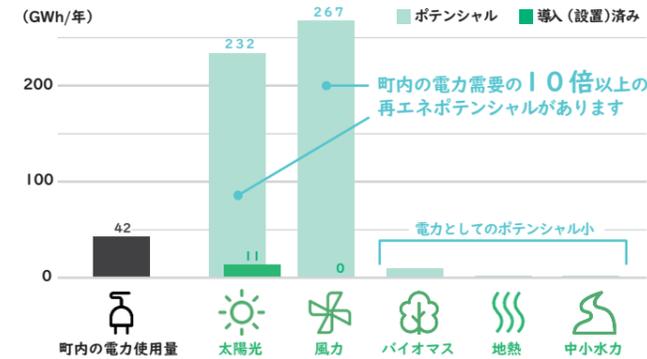
取り組みの背景

気候変動対策 気候変動は自然及び人間社会に影響を与えており、このままのペースで温室効果ガスの排出が進むと、後戻りできないほどの深刻な影響を与えることが懸念されています。深刻な地球温暖化問題に対して、能勢町では2021年3月にゼロカーボンタウン^{※1}を宣言し、町の取り組みのひとつとして、**2030年までに再生可能エネルギー供給量を2015年比の2倍、2050年までに同年比4倍に増やす**ことを掲げています。

※1…CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること。

地域との共生 これまで、能勢町では再生可能エネルギー施設の設置を事前に把握したり規制する方法がなく、災害の懸念がある場所や景観を損ねる場所などへの設置を止めることができませんでした。能勢町の豊かな自然環境や生物多様性などを保護しながら再生可能エネルギーの導入を進めるためには、再生可能エネルギーを配置できるエリアや禁止するエリアを定める計画づくり（ゾーニング）が不可欠です。ゾーニングによって設置が望ましくない区域を示すなどして**不適切な設置を抑制し、自然環境や地域社会と共生する再生可能エネルギーの導入**を目指します。

能勢町のポテンシャル



※2 環境省の調査…環境省の「自治体再エネ情報カルテ」より把握

※3 ポテンシャル…設置可能面積や平均風速、河川流量等から理論的に算出することのできるエネルギー資源量

能勢町の現在の電力使用量に対して、環境省の調査^{※2}によると太陽光発電と風力発電（陸上）のポテンシャル^{※3}は、10倍以上あります。そのうち、町内で導入（設置）されている発電は太陽光のみでポテンシャルの6%程度です。同調査では、バイオマス・地熱発電・中小水力発電のポテンシャルは0でした。バイオマスは、小規模な発電や熱利用については可能性が考えられます。まずはポテンシャルが大きく、その導入において地域への様々な影響が考えられる太陽光発電と風力発電について調査・整理を行いました。

ゾーニングとエリア設定

再生可能エネルギーや森林分野の専門家の監修の下、開催した庁内検討委員会や、住民とのワークショップでの意見等を反映して計画をつくりました。2050年の目標達成に向けて随時モニタリングを行い、適時計画の見直しを行います →検討過程は裏面を参考

重視した考え方

ゾーニングとは、地域のエネルギー問題について住民自らが考え、行動に移すためのコミュニケーションツール。

本事業終了後も、住民との対話を継続することや、必要に応じて計画を見直し、地域や社会の状況に適応させる。

エリア名	エリアの定義
禁止区域	法令等による立地制限や環境保全・災害防止等を優先する区域。 例)土砂災害特別警戒区域、自然公園特別地域
許可申請区域	発電施設の立地にあたって様々な制約があることや、環境・社会面等において留意が必要な区域。 例)農用地区域、保安林
届出区域	配慮事項はあるが、環境・社会面から発電施設の立地が見込める区域。届出を提出することによって、再生可能エネルギー事業を行うことができる。